



# くば小児科 クリニック

院内報 2007年6月・7月号

## ● 院内版感染症情報 ～2007年26週 (6/25～7/1)

| 2007年    | 第10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26週 |
|----------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| インフルエンザ  | 5   | 21 | 45 | 42 | 22 | 10 | 18 | 9  | 4  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 咽頭結膜熱    | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| A群溶連菌咽頭炎 | 2   | 1  | 0  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0   |
| 感染性胃腸炎   | 4   | 8  | 7  | 8  | 2  | 5  | 10 | 6  | 4  | 1  | 5  | 3  | 3  | 4  | 2  | 3  | 4   |
| 水痘       | 3   | 1  | 2  | 1  | 3  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 0  | 0  | 1   |
| 手足口病     | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 伝染性紅斑    | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 突発性発疹    | 1   | 0  | 0  | 2  | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 百日咳      | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 2  | 0   |
| 風疹       | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| ヘルパンギーナ  | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 麻疹       | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 流行性耳下腺炎  | 2   | 0  | 2  | 0  | 0  | 2  | 1  | 4  | 0  | 0  | 1  | 0  | 1  | 1  | 1  | 0  | 2   |

6月末現在で、冬場から春先にみられたインフルエンザ、RSウイルスによる細気管支炎はいずれも終息しています。かわって発熱が主体の夏かぜが増えてきています。手足口病やヘルパンギーナといった特徴的な夏かぜはまだみられていませんが、例年7月がピークになりますので今後注意が必要です。夏かぜの中でもウイルス性胃腸炎がみられていますが、重症化することはあまりありません。咳がひどくなるタイプが散見され、中には入院治療が必要になったりその寸前まで悪化した子もみられました。保育園などでは、おたふくかぜの小流行が残っているようです。

前号でもお伝えした麻疹（はしか）については、次の項目をご覧ください。

## ● 八戸市内の麻疹（はしか）集団発生→MRワクチン緊急接種を

春先から首都圏を中心に流行していた年長児・若年成人における麻疹（はしか）の八戸侵入に備えて、1例でも見逃さずに全例報告、情報伝達・共有、初期の素早い隔離・予防接種などの対策を関係各方面にお願いしていたのですが、今回の八工大一高における集団発生については、第1例が6月19日に発症したというのに、7月2日になってやっと1例のみ医師会を通じて私たちに情報が伝わっただけで、報道でその概要を知ったような始末です。学校・保健所・医療機関などの対応や連携に問題がなかったかどうか、検証が必要です。

とるべき対策はただ1つ。麻疹の予防接種をしている人も、していない人も、不明な人も、感染者と接触した可能性がある人も、不明な人も（他校生を含む）、抗体検査など実施する必要はありません（している時間はありません）から、麻疹・風疹混合（MR）ワクチンを緊急で接種すべきです。（※）

これが国際的なスタンダードで（本来ならMMRワクチン）、日本より対策が遅れていた韓国では、国をあげて年長児や成人への2回目接種を一斉に行ったために、あっという間に麻疹を制圧して麻疹対策の優等生になりました。

現在、小1以上へのMRワクチンは全額自費になります。

これは現在のわが国のプアーな予防接種政策の失敗を端的に示しているもので、致し方ありませんが、八戸ではこのところ麻疹の流行がなく、感受性者（抗体がないか不十分な人）は多数いるものと考えられますので、季節とは関わりなく、これから夏休みまでに流行の第二波、第三波がやってきて、その家族や周囲へ拡がってくるものと予想して対応しなくてははいけません。

MRワクチンの接種を急いでください。

※MRワクチンを接種しなくてもいい人

- ・小1か幼稚園（保育園）年長でMRワクチン2期を接種している子
- ・1歳以上幼稚園年中までで、麻疹またはMRワクチンを1回接種している子
- ・1歳未満で保育園に行っていないか、9か月未満で保育園に通っている子（9か月～11か月の保育園児は流行時には接種が勧められます）
- ・これまでに麻疹に罹ったことが確実な人
- ・これまでに麻疹に罹った人と接触して、その時に罹らなかった人
- ・いずれも不明だが、40歳以上の人（心配な場合は検査しても構いません）

## ● ぜんそく教室（全3回）開催のお知らせ

### 第1回「喘息の基礎知識」

日時 7月28日（土）15:00～16:00（14:30～ビデオ）

内容 気管支喘息とは？ 喘息の症状 治療の目標 発作のときの対処  
治療につかう薬の知識 発作のないときの管理

ご案内が大変遅くなりました。今年もぜんそく教室を開催します。

喘息の治療のためには、患者さんやご家族が病気のことを知り、薬のことを知り、対処法を理解した上で長期にわたって取り組んでいくことが必要になります。内容は昨年までとほぼ同じですので、参加できなかった回がある方はその回だけ参加していただいても結構です。

### 第2回「ぜんそく児の日常生活」

日時 8月25日（土）15:00～16:00（14:30～ビデオ）

内容 家庭での環境 日常生活・学校・行事 体をきたえる  
喘息のセルフ・ケア 前回の復習

真夏は比較的落ち着いていることが多い季節ですが、お盆過ぎて涼しい風が吹きはじめると喘息発作も散見されるようになります。第2回は環境対策を中心に、日常生活や学校生活などについてまとめてみたいと思います。喘息の治療は薬だけではありません。発作をおこしてからあわてないように、発作のないときにコツコツと貯金をためていくつもりで一緒に勉強していきましょう。

第3回「喘息のセルフケア」は9月29日（土）の予定です。

## ● 7月～8月の診療日、急病診療所、各種教室、相談外来の予定

7月は臨時休診はなく、お盆休みは8月13日～14日（15日は午前診療）。急病診療所当番は7月1日（日） 昼、29日（日） 昼。赤ちゃん教室は7月14日（土）、ぜんそく教室は上記の通り。育児相談・子どもの心相談、禁煙外来は随時受け付け中。メール予約システムをご利用下さい。（HPのメニューから）

発行 2007年7月4日  
<http://www.kuba.gr.jp/>

通巻第128号  
☆ 当院は「敷地内禁煙」です ☆